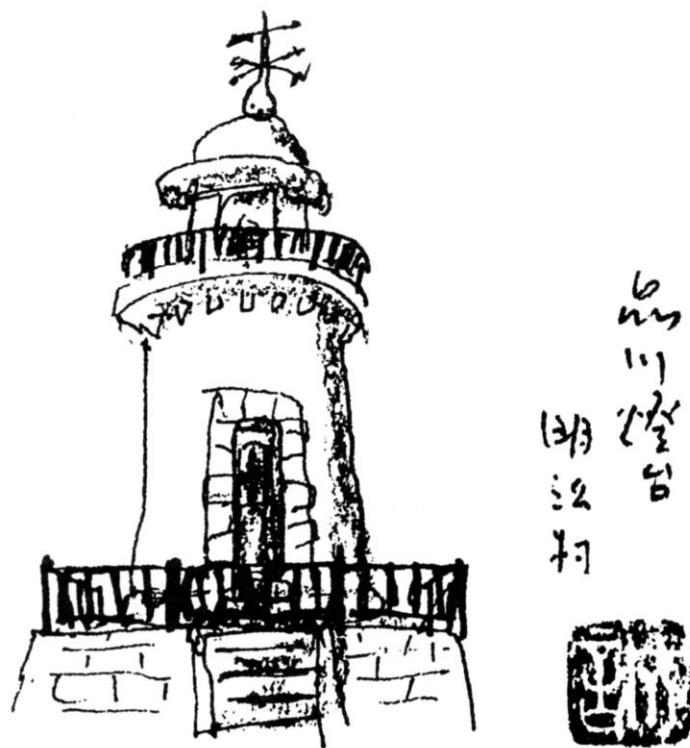




永原誠画



十三人の無期停学処分（上）

—私の記憶—

平井 初美

我が心の市電をかえりみて
—八年間の運動のあゆみ—

戦後青年運動の一側面（下）
—だん王と青年団の活動—

西谷 宣雄

信ヶ原 良文

燎原文芸

黒住 嘉輝

総会報告

編集後記

十三人の無期停学处分(上)

—私の記憶—

平井初美

一、それは学生が最も敬愛する足立教授の解雇から始まった

動を快く思っていない学長にとつて、学生に人気のある教授を追放するチャンスだったからかもしれません。

二、これが女専教授会妨害か

なければならなくなりました。」
と言われました。わたしはどうと
う来たのかと、ドキッとしました

その頃京都の大学では、授業料値上げ反対の学生運動が市内のタ

一ミナルなどでも良く見られ、京都府立医大でも学内の民主化運動

で本科の学生達がよく集会をしたり、自治会活動が活発でした。世

界は米ソ冷戦時代で、第二次世界大戦後、中華人民民主主義共和国

が樹立され、アメリカでは「共産主義者を追放すべき」とマツカ

三義者を遠放すべし」と云ふが、シ一赤狩り旋風が吹き荒れ、名優

チヤツブリンもハリウッドから追放された時代でした。日本の大学

にも共産主義者の教授を追放せよ
と来日したイールズが講演にまわ
っていましたから学内の民主化運

いました。私達は入口付近に集まつて中の様子を見ていました。その時女専の教授会は公開か非公開かの審議に入つていました。公開にしようという足立、竹沢教授の

で欲しい、という嘆願書を作成し、教授会に提出することにしました。府立医大の教授会は公開と決まつていましたので、当然女専も公開だと思っていました。上級生の委員と私達のクラス委員、十数名で教授会へ傍聴に行きました。会議室に行くとすでに教授達は全員揃っており、本科の学生も数人中に入つて

翌日に教授会があると上級生が知させてくれたので、クラス委員と相談して（十月に私は後期のクラス委員長に選ばれました）急いで足立、竹沢両教授を解雇しない

筋の通った意見に対し、志多教授の態度は実に非紳士的で、学生として接している時には信じられない驚きでした。他の教授は自分の意見を述べる人も無くただ学長の顔色をうかがうのみです。結果は八対二で非公開と決まってしまいました。私達は納得出来ませんでした。本科の学生は「自分達はクラスの代表として来ているので決議文を受け取つて欲しい、また非公開の理由を聞かせて欲しい」と言いましたがそれには答えず、「出

ちこめるような感じがしました。この間に女専教授会は傍聴に来た学生を処分するよう学長に上申してました。小児科の三宅教授が私に傍聴に来た者の名を書きなさい、と言われたので処分されるのだろうかと、ふと思いました。

て行きなさい」の一点張り、学生は「理由が分るまで出ません」と言うやり取りの中、突然、木口教授が大声で「流会だ、教授会は妨害された、出て行きなさい」と叫んで教授会は中断しました。「二人の教授を辞めさせないで」の二言も言えずに出でていけという態度で追い出され、上級生と一緒に納得できないまま階段を下りました。階段の中ごろで本科学生の上田さんが上がつて来て「もう終わつたんか」と聞いたので、「流会になつた」と答えました。

三、これでも教育者なのか

呼び出されました。集った父兄は「言い分はあるが、一時謝るほうがいい」ということになつて、三宅教授と一人一人面会しました。つじつまの合わない話を聞かされ

六、知識の宝庫足立教授室

足立先生の部屋には、いつも女性の学生が数人集っていました。そこは興味の尽きない知識の宝庫だったのです。足立先生は私に、

「学校の勉強をする事は大切だが、それだけでなく、全く別の分野でも興味のあることを研究するといいよ」とアドバイスして下さいました。

私は大阪から往復六時間かけて通学していましたので、その間の列車についてノート一冊分の観察記録をとり、専門誌でしらべてみました。日常の何げないことでもよく觀察し、調べることのたのしさを知りました。科学者として、医師として、幅の広い人間になるように、と言う意味だと思いました。解剖学の最後の試験は忘れられません。教科書、ノート、参考書何を持ち込んでも良い、時間も無制限、という条件でした。私達はあらゆる物を持ち込んで机の横に積み上げましたがとても難解でした。例えば、「今日は試験だ。胸がどきどきし、額と掌に汗が湧み出ってきた。試験用紙を見た、ペンを握って……」この最初の部分から感覚系、大脳系、神経系すべての働きと系路を書きなさい。

「学校の勉強をする事は大切だが、それだけでなく、全く別の分野でも興味のあることを研究するといいよ」とアドバイスして下さいました。私は大阪から往復六時間かけて通学していましたので、その間の列車についてノート一冊分の観察記録をとり、専門誌でしらべてみました。日常の何げないことでもよく觀察し、調べることのたのしさを知りました。科学者として、医師として、幅の広い人間になるように、と言う意味だと思いました。解剖学の最後の試験は忘れられません。教科書、ノート、参考書何を持ち込んでも良い、時間も無制限、という条件でした。私達はあらゆる物を持ち込んで机の横に積み上げましたがとても難解でした。例えば、「今日は試験だ。胸がどきどきし、額と掌に汗が湧み出ってきた。試験用紙を見た、

(ひらい はつみ 大阪市在住
医師 京都府立医大付属女専卒)

番印象に残ったテストでした。足立先生は学生の個人的な悩みや、人生の相談相手にもなって下さいました。私達女専の学生にとつてこんなに優れた先生を失いたくなかったのです。

七、人間性豊かで気骨を秘めた竹沢先生

竹沢徳敬先生は耳鼻科の教授で二年生から授業を受けました。授業の間に時々横道にそれた話が面白く、よく軍医だったときの話を聞いて下さいました。戦地で弾丸が耳や鼻をかすめてとんでもしまった人に、腕の皮膚を移植して耳たぶや鼻を作った話や、その写真を見せてくれました。敬虔なクリスチヤンでどんな事も子どものように素直な気持ちで受け止めて下さる先生でした。どうして学生に人気のある教授が、その心の中の思想によって解雇されたのか納得出来ませんでした。二〇〇五年一月二十七日、八学生の身分保証は却下され、学内は重苦しい雰囲気になりました。

(ひらい はつみ 大阪市在住
医師 京都府立医大付属女専卒)

我が心の市電をかえりみて

—八年間の運動の歩み—

西谷 宣雄

一般に、「高度経済成長期」のはじまりと云われている一九七一年。京都市では、船橋市長、自民・社会・公明・民社の各党は、八十三年間続いていた「市電」を撤去することを決めてしまいました。

経営上の赤字を口実としてのことでしたが、もつとも経済的であり、無公害な、「市民の脚」を、スクランプにして、バスや、地下鉄に切り替えてしまおうと云う、よく見れば、大企業との癒着構造を露わし始めた反動政治の幕開けであつたと知らされる出来事であります。

その様な視点からみれば、七二年四月、市電労働者・市民・進歩的な学者達が、「市電を守る会」を、結成し、撤去反対の運動を進める事になつたのは、自然のなりゆきであつたと云えるでしょう。このたたかいの模様については、冒頭のタイトルにかけたパンフレットに、詳しく書かれています。

この本に書かれていることだけではなく、運動の呼びかけ人の一人でもある日仏会館の初代館長であったオーエン・コルヌ先生が、自らも街頭に立つて約一〇〇〇名以上の署名を集め等、積極的に行動されていた事も忘れられません。私も、六七年から大阪市内の病院に勤務する様になつてから、市電を利用してましたので、この運

動に「無関心」では、おられませんでしたし、九年前に亡くなつた妻も、可成りの人数の方々の署名を集めていたことも、今から思えば、なつかしい思い出です。

丁度その頃、各地の大学では、学園紛争が燃え上がつており、東京でも都電廃止に反対する学生達が、警察機動隊に鎮圧された事が、このパンフにも書かれておりますが、或る朝、私の乗つていた電車に学生(?)が、石を投げて攻撃したという事件があつたことも、忘れられません。他の乗客全員を下車させましたが、私だけは、運転手さんの指示通り姿勢を低くして、現場を強行突破しました。石のブツかる衝撃音を感じましたが、運転手さんと一緒にガニ張れた事が、嬉しかったという、年甲斐もない冒険談のオソマツです。

それから、約三十年もの月日がたちましたが、あの学生、今頃どうしているのかが、気になってしまします。

京都の市電もなくなつてから、約十年後、私もオーストリアのウイーンを訪れた際、その市の市電に乗り、市電の博物館をみることも出来ましたが、リフォームされたスマートな電車が、五カ国語ぐらいいはペラ・ペラの通訳を乗せて、

市の外郭にある官庁や文化施設のある街筋をめぐつて走つており、観光目的にもピッタリという、合理的な運営がされているのに、先ず驚かされました。

更に亦、市電の博物館をみて、それらが、如何にして守り育てられて來たかを知つた時、強い、衝撃を受けました。展示品として、古い市電に、「右廻り」と書かれた看板をみると出来たからです。案内してくれた係員の説明により、第二次大戦の時、侵入したナチス・ドイツによつて、「右廻



ウィーン市電博物館

り」を強いたられた怒りのシンボルと云う事が判りました。

中立国の労働者らしいたたかいが、この文化財を守つて来たことを感知させられた、有難い体験をして、心の底に大切にしまつて、おきたいのです。

残念乍ら、七八年に市電は撤去されてしましましたが、労働者と市民・学者・外国人までたたかつたこの運動は印象ぶかいものです。が、先にのべた、ウイーンで、見聞したこと、守る会が、主張していた「市電公社案」の有意性を、連想させるものであり、この様な公共交通機関のあり方を、今暫くは考え続けてゆかねばならないと思っています。

市電がなくなつて後、地下鉄・バスが、京都市交通機関の主流ですが、これは、名実共に、ヒドい赤字。バス等は民間企業に譲りわたすことになつてゐると、「守る会」運動に参加していた識者の予測通りの、キビしい状態になつてしまひました……。

七〇年当時のことを思い出して、今度は、老いも、若きも、みんなの知恵と力を集めてもう一度、健康的であり、経済的である、市民の脚をつくり直すこと。殊に最近の京都市では自・公など、オーバル与党体制の政治が強められるなか、市バスの経営状態も悪化し統合、路線の縮減・民間企業への移譲などが進められようとしています。このうえ、高速道路が入りこんでくると、大気汚染は一層ひどくなるだろうと云う事も予想されています。



(にしたに のぶお
左京区在住 医師)

戦後青年運動の一侧面（下）

—だん王と青年団の活動—

信ヶ原 良文

みんな佛の子

青年たちは、みんな昼間は農業をしたり、役場や会社に勤めていたり、また学生たちも参加するので、みんな夕食を終えて、集まつてくるのです。府下の各町村の青年たちは、宿泊しなければならないので、事前に宿泊の申し込みをします。講義や座談会が終わると、男女別にみんなが雑魚寝をするわけです。朝食は当時、寺の門前にあつた、とても安い川端食堂で食事をとりました。所長の私も、青年達と寝起を共にすることが、たびたび起こりました。

市内の青年は、普通、交流会や講義が終わると帰宅するのですが、幹部の青年諸君の中には、郡部の青年と一緒に泊まり込む者もありました。そうすると、宿泊する青年諸君と寺内の私達は話しあう機会や時間も多く、自然に寺内の者と親しくなりました。それに彼等が青年の家にくるたびに、それぞ

れの土地の野菜や果物などを佛さまにお供えをしてくれるのです。

私達も、彼等青年団の幹部諸君と親しくなると、時には寺の台所で、母の手料理で一杯かたむける、

というようなこともあります。

とりわけ、うれしかったのは、青年の家は寺ですから、毎日、朝は早く、本堂の扉を開け掃除をし、夕方は閉めなければならないのです。夜遅くまで座談会や討論をした青年たちが、本堂の扉を開けているのを見て、思いがけない彼等のやさしい心配りにびっくりしたのです。日曜日の朝など、落ち葉が多い日には、用務員の大西仁平おじさんを手伝つて、境内の掃除をしてくれるのです。おじさんは恐縮がつて「おおきに、おおきに、有難うさんです。」とペコペコお辞儀をして喜んでいたのを思い出します。

また、本堂で師僧と一緒に朝のおつとめをしていると、時々青年たちもおまいりしているのです。

「よくおまいりしてくれたね」と言うと、「今日はおぢいさんの命日で、家にはお坊さんが来てくれるので、僕はここでおまいりをしました」と言う。心のやさしい青年もたくさんいたので、これには本当に感心したものです。

私達をビックリ仰天させた、新

年のお年玉事件、未だに忘れることができない。母親が悲鳴をあげたお年玉で、それは、正月五日の朝のことでした。

台所の上がり口に相当大きな猪

が一頭置いてあるのです。後でわかったのですが、青年の家の常連である綾部連合青年団長の井上甚太郎君が、弟の勝君と一緒に持つてきたのです。よく見ると、小さな紙片に鉛筆で「先生に、お年玉」と書いてあるのです。母はビックリして「ヒヤー、猪やないの、は

よう裏の庭へ持つていって。」「よう、拌んどいてやつてや。」「井

上君、よう遠い所を有難う。」と驚きながら、精一杯お礼を言つていたのを思い出します。

井上君は、当時、中上林村の青年団長もしていた活動家で、獵の名人だそうで、純真な若者の気持ちというのは、時には思いもよらない、ビックリ仰天するようなこ

とをするのです。

このような若者たちの純情な心づかいや、仏様へのお供えや、頼みもしないのに扉の開け閉めを手伝つてくれたり、青年の家を開設するまでは全く予想もしなかつたというのが、偽らざる気持ちでした。

ですから、彼等の責任感や、や

さしい思いやりの心がとてもうれ

しくて、師僧はじめ寺内の者は「み

んな仏様の子やなあ」と言つたも

のです。

こうして互いに学習会や交流会をしたり、また大先生からヒューマニズムや、民主主義の思想や仏教の人生観、世界観について学んだ青年たちは、それぞれの地域に帰つて、青少年団体の指導者や村や町の指導者となつて、青少年の育成や民主的な団体づくりに活躍したのです。

とりわけ「だん王子供の家」の創設と活動に献身的な協力をしてくれた青年たちは、地理的なこと感を忘れることが出来ないのです。

もあつて市内や周辺部の青年が多かったのですが、その純真な正義感を忘れることが出来ないのです。

きっかけは、「先生、境内に外人の兵隊と女がきますね。」の一言で、青年から情報で境内に出てみると、二組の米兵と女性が

手をつないで話し合っていたのです。別に悪いことをしているわけではないので、放つておいたのではあります。その時は、これが「子供の家」の創設といった大問題になるとは考えもしなかったのです。

一握り供米運動

青年の家は、戦後の復興と経済の成長と共に、それぞれの地域に公民館や各種の集会場が建ちはじめ、青年団体も自主的に組織活動を活発に行なうようになって、その役割を終えることになるのですが、なにしろ青年の家は「寺」ですから、毎日昼・夜となく男女青年たちが交流会や研修、講義、討論に参加するために出入りするのですから、確かに住民や檀信徒の一部には、異常にうつたつたと思います。だん王さんのお寺は、つぶれるのとちがうか、そんな声さえ耳に入つてくるのでした。

ところが、この青年たちはやっぱり仏さまの子でした。青年の家には、屋根瓦専門の若者も大工さんもいたのです。みんな自分たちの勉強だけでなく、お寺の庫裡や大方丈の雨漏りを直してくれましたし、それに素晴らしい人助けの運動を計画したのです。いずれも団長会議の中で話し合われた奉仕

活動でした。

敗戦後の市民生活は、貧窮のどん底にありました。勿論農村の人達の生活も、働き手を兵隊にとられていたのですから。ゆとりのある生活ではなかったのですが、府下の青年団と市内の青年会が協力して、市内の生活困窮家族を助けよう、と府下の青年団が一齊に立ち上がり「一握り供米運動」を開いたのです。

農村の各家から、一握りのお米を、漁村では魚の乾物を供出してもらう運動ですから、青年団が町村民に信頼されていないと出来ないことです。それに、お米を集めある村の青年団は、とても大変だったと思うのです。

供出をお願いに歩く青年団の諸君も、お米を供出してくださる村の人たちも、共に慈悲のこころの実践であつたと思うのです。組織というものに仏の心がかようと、こんなにすばらしい人助けの活動が出来るのです。

だん王の境内は、府下各地の農漁村の青年団から、トラックで統々運び込まれる米・芋・魚類の乾物等で山積みとなり、相楽郡の宮城連合青年団長の如きは、消防自動

車を運転して、米を一杯積んで、時々サイレンを鳴らして、境内に飛び込んでくるなど、若者らしい誇り高い運動が繰り広げられたのです。

境内に積み上げられた米や芋や乾物などは、市内の青年会の幹部や有志青年たちと、民生安定所（現在の福祉事務所）の職員によって、生活困窮家庭に配分され、とても感謝されました。

十人分を青年の家に寄贈され、感謝の意を表されたのでした。

この一握り供米運動は、京都の青年運動史に輝かしい一頁を刻み、

また所長の私にとりましても、純真な正義感に燃えた、若者たちの組織活動というものの明るさと強さに心うたれ、これこそ民主主義の実践であり、仏教の菩薩行ではなかつたのかと思い、決して忘れることができます。

時の高山義三市長は、青年運動の交流のために、と副所長の団長諸君と寺の希望を入れて、寝具五

（しがはら よしぶみ
故人・元檀王法林寺住職）

【総会報告】

2003年度総会は6月21日、教育文化センターで13名の出席でおこなわれました。経過報告と運動方針提案のうち会計報告と監査報告があり、このままではあと2年で繰越金を食いつぶし、刊行不能となることが指摘されました。これから新会員かく得が重大な課題となります。小講演 田北亮介氏の「アメリカとイラク・北朝鮮」はタイムリーで充実した内容で、質問も出ましたが、終りの時間の関係で十分な質疑ができなかったのは残念でした。

収支一覧表 2002年4月1日～2003年3月31日

収入項目	収入金額	支出項目	支出金額
前期繰越	683,962	会報印刷(140号～145号)	308,700
会費収入	216,000	編集集費	8,960
カンパ収入	6,000	発送印刷費	129,000
雑収入(貯金利息)	558	事務費	26,578
		振替払込料	5,040
収入合計	906,520	支出合計	478,278
		現在高(貯金)	428,242
合計	906,520	合計	906,520

会計監査報告

井出審査委員長より会計報告を受け収支一覧表は正確であることを確認された。報告致ります。会計監査蓮佛亨

燎原文芸 黒住嘉輝

『詭弁』

対岸の国に惨禍を及ぼせし過去あり 雨の白兎海岸
 求められ「創氏改名」せしと、麻生太郎自民党政調会長
 「フセイン」も見つからないが確かに居た「大量破壊兵器も」なる詭弁・小泉
 郵便局民営化論者の小泉が 銀行国有化とは聞こえぬ話

『翼賛議会』

死を賭して「國家総動員法」を批判した 斎藤隆夫六十九歳
 九割が「有事法制」に賛成したり翼賛したり六十三年
 議員除名の斎藤隆夫を次の選挙にトップで選びし但馬の人ら
 悪乗りし「九条改正」を口にする総理小泉 人気いつまで

『國宝』

聾聲指帰空海二十四歳の筆跡の「國宝」とあり暗き灯のもと

富太郎四子吉親交のありしなり 猫の牧野犬の牧野と呼ばれし二人

グローバル化・ボーダーレス社会・情報化 新型肺炎SARSひろがる

御典医が殿様の便を見しごとく時折我も便器を覗く

編集後記

総会が終わつて会はあらたな決意で出発しようとしている。だが政府・与党は国会の会期を四〇日も延長して、なにがなんでも有事法制の成立を強行しようと、イラクでの戦闘はおわったと説明して自衛隊をイラクに派遣するための「イラク特措法」も押し通そうとしている。他方、新聞の報道は連日のようにイラク人と米軍の死傷者を伝え、米国防当局はイラクでの戦闘は終わつていないと公言した。大きなウソが憲法第九条違反の既成事実をつみ重ね、その上で現実にあわなくなつたと稱して憲法改正のたくみが進行しつつある。戦前・戦後の民主運動史に関心をよせて来たわれわれの黙視しがたい事態が進行しつつある。

先号以来掲載の故信ヶ原良文氏の文章は檀王法林寺「念すれば花ひらく」(一九九五)の、今号の平井初美氏の文章は京都府立医科大学戦後学園運動記念文集第二集『比叡は明けたり』(二〇〇二)からのそれぞれ抜粋である。掲載を許された各刊行者に感謝したい。



TEL	会および会報については、
FAX	左記へご連絡下さい。
○七五—七二二一三八二三	〔事務局〕
〒六〇六一八一〇七	
京都市左京区高野東開町	
一一二三 第三住宅	
三三一三〇二 井手 幸喜	